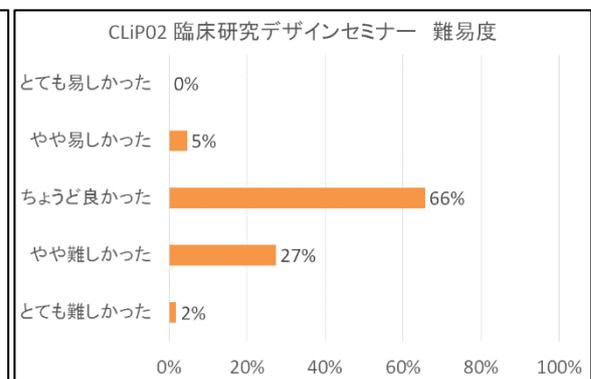
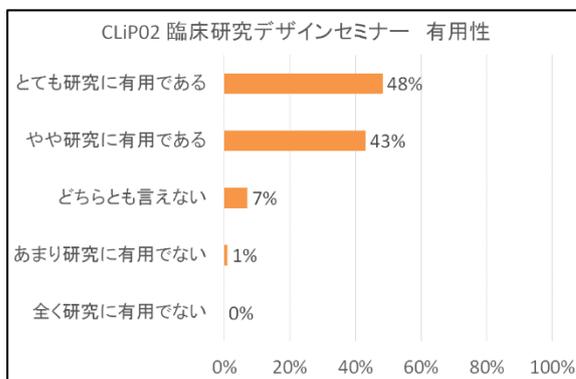
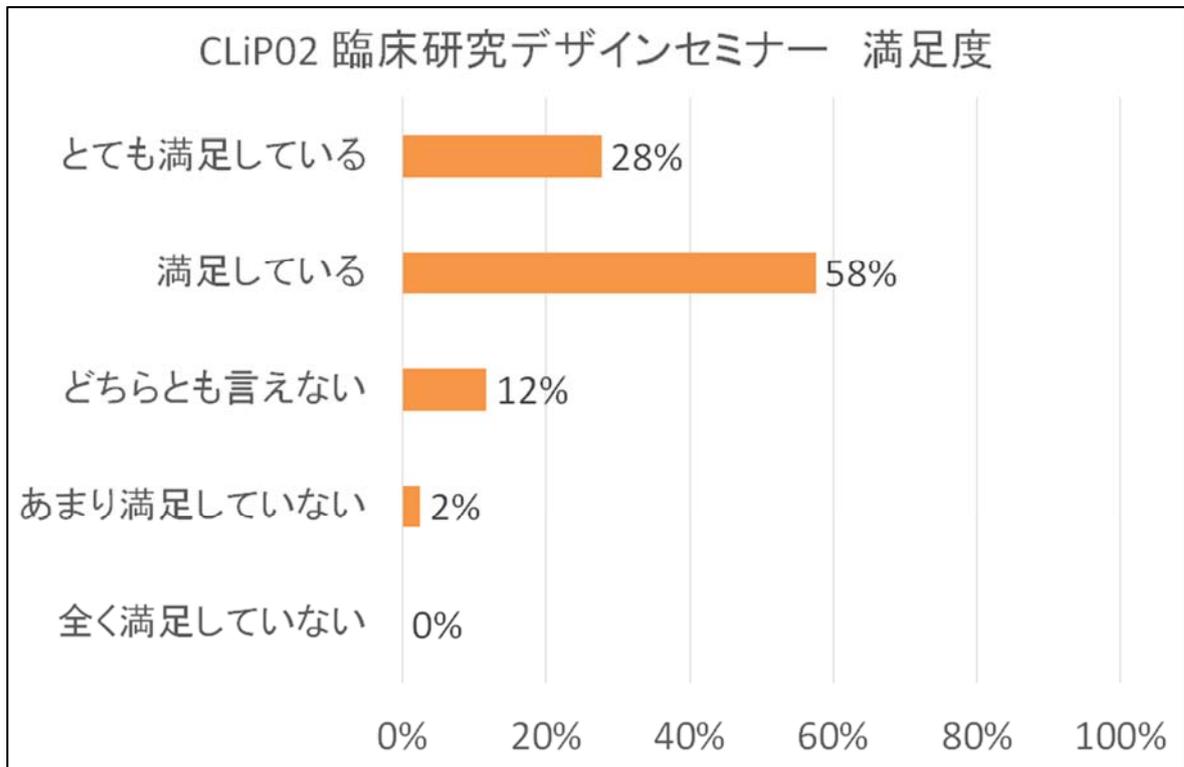
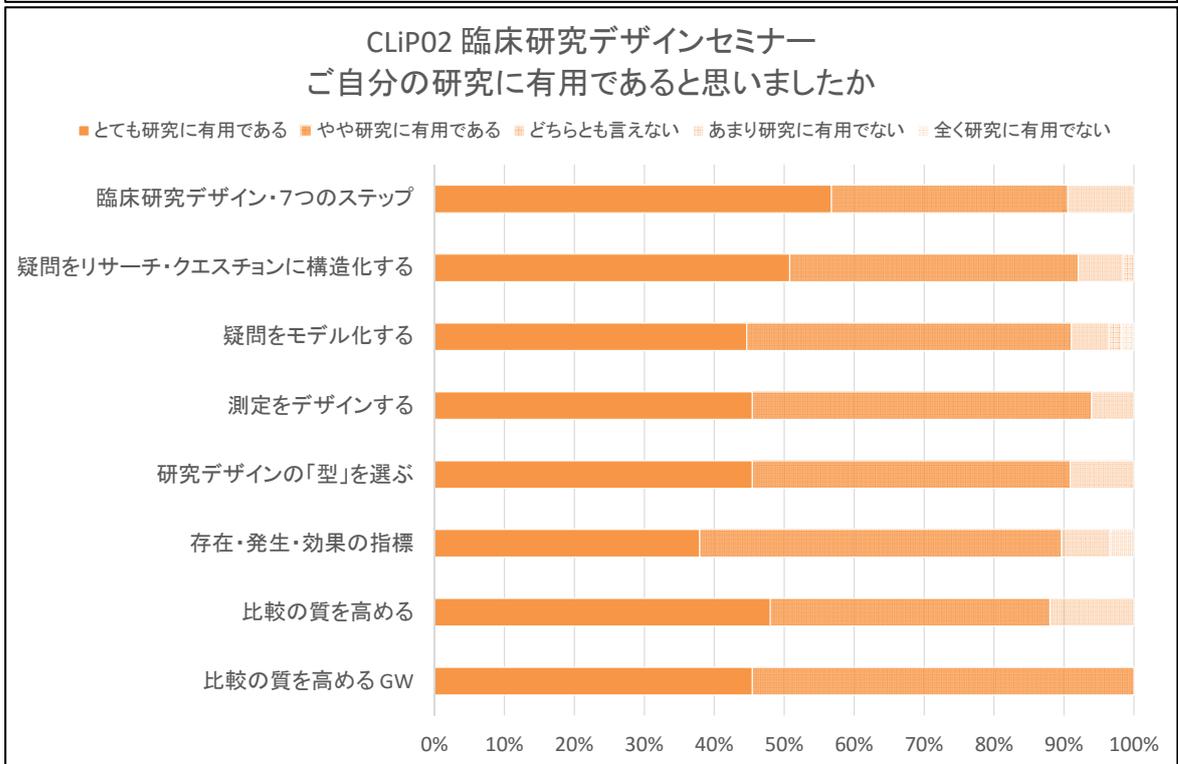
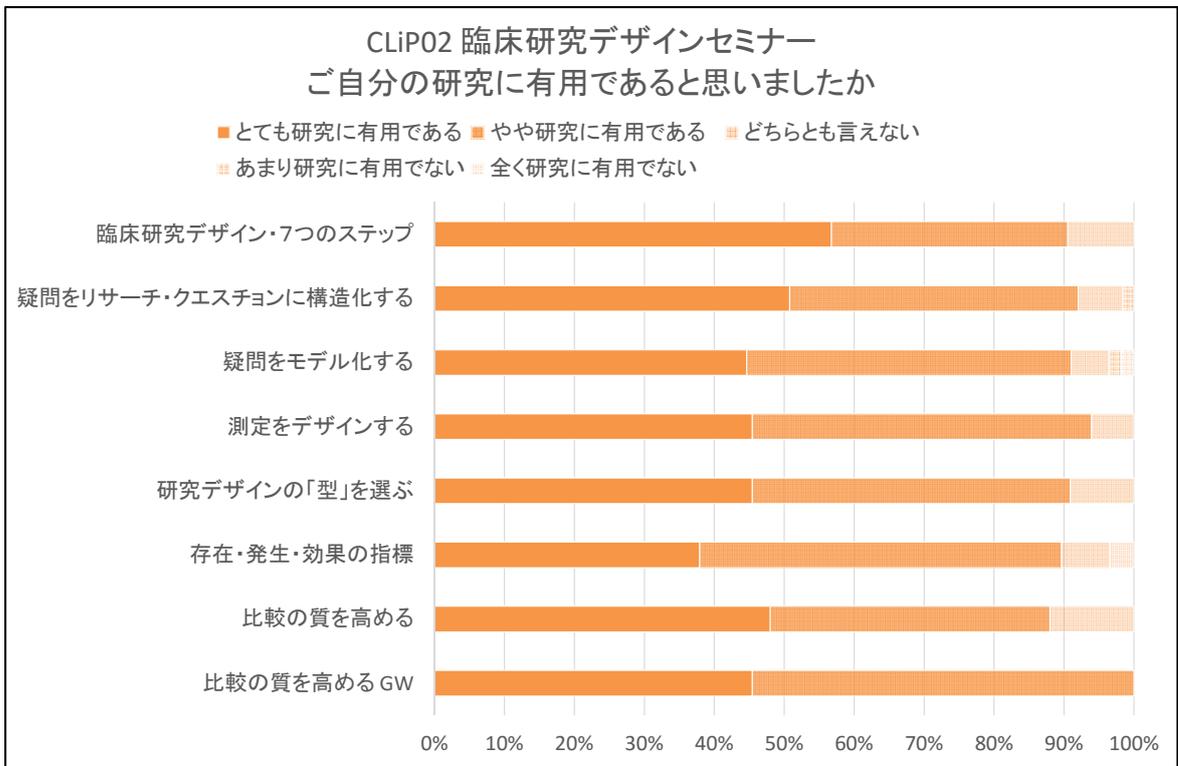


CLiP02 臨床研究デザインセミナー 授業評価

- 全体評価
(ア) アンケート

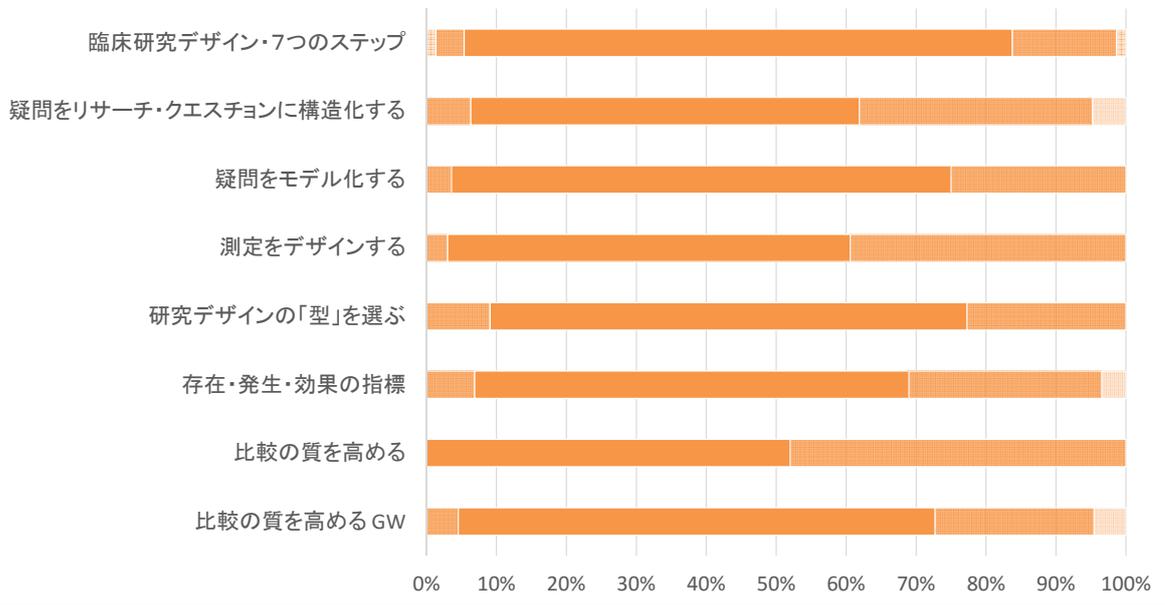


- 各回評価
(ア)アンケート



CLiP02 臨床研究デザインセミナー 講義の難易度は適切でしたか

■ とても易しかった ■ やや易しかった ■ ちょうど良かった ■ やや難しかった ■ とても難しかった



(イ)第1回 臨床研究デザイン・7つのステップ 感想

- 理スライド、話ともにとてもわかりやすく興味をもてる内容だった。
- わかりやすい言葉で、情熱的に講義いただいたので、とてもよく理解できた。
- 必要性は感じながらも苦手意識のある分野でしたが、具体例多く、先生の噛み砕いた講義で楽しく納得しながら拝聴することができた。
- 日々の臨床の中では臨床研究の知識の必要性は強くかんじているものの、系統的な話をうかがえる機会が無かったので、楽しみに応募しました。
- 自分が今までやってきた「臨床研究らしきもの」を真の意味での臨床研究に昇華させることができそうに思える。経験的にやってきたものと理論的に学ぶことができる期待がある。
- 今後研究・論文作成を行おうとする上で、入り口で躓きそうな時に、ひとつの道しるべをしるしていただけたように思います。
- 学会の発表で過去10年間の顎顔面骨の骨折の統計を報告しますが、自分のやっていることはどういうことなのか理解しようという気持ちになりました。
- 研究計画を立てる基礎的な知識や心構えを学ぶことができ、大変満足しております。
- 今まで体系的な講義を受けたことがなく、見よう見まねで“研究”してきましたが、お話を聞いて自分の知識レベルの確認ができました。
- 業務に関連性が高く、次回以降が楽しみです。
- 臨床研究への取り組み方の枠組みのようなものをわかりやすく示していただいて、大変参考になりました。自分が今まで持っていた先入観や思い込みが取り除かれて非常に見とおしがよくなったような気がします。ありがとうございました。
- これまで市中病院にて臨床研究に参加してきましたが、系統立てて学習することがなかったため、知識の整理と、知らなかったことが分かりました。
- 福原先生のプレゼンテーションの見事さに感動すら覚えました。
- 内容も、クリアカットに頭に入ってきました。
- 自分がしてしまいがちな間違いに多く気づいた。
- 今まで学びたいと思っていたが、機会がなかった。
- 研究デザインの方法について知らなかったことをわかりやすく教えてもらえた。
- 今まで何となく抄録を書いたり発表したりしていたことを反省しました。
- 実際に研究の始め方を教われることが良かった
- 分かったつもりになっていて、実際には全然分かっていなかった内容もあり有益でした。
- 臨床試験のデザインの重要性がよくわかりました。
- 非常にわかりやすく、実際に使える知識を説明して頂けました。
- 今後行いたい臨床研究の参考になると思った。
- 実際に現在、所属している大学院での研究に関してのデザインを立てている最中でありながら「これは研究として成り立つものなのかどうか」という次元での迷いがあったが、今回の講義を聴いて、研究デザインの「型」について理解することができ、デザインを作成するのに有用であると感じた。
- IMRAD が間違っているとか、初めて知ることが多かった。

- 全体像についてよく理解できました。
- 「1つの研究に目的がたくさんある」「本人もわかっていない」「統計解析ができないから研究が出来ないと思っている」などなど、福原先生のおっしゃる通りの私でした。勉強せねば、というモチベーションをさらに上げていただきました。
- 一流誌の編集者が読んでくれない抄録について、具体的な話が聞けて良かった
- 初心者にも分かるように説明していただき、非常に有り難かったです。
- 初回ということで導入的な講義であった。
- 研究デザインの型についてもう少し詳しくお聞きしたかったです。
- 抄録のことや症例報告のこと等、身に覚えのある話で非常にわかりやすく、興味を持って授業に臨むことができた。
- デザインセミナーで学ぶ目的を学べたから。DOPPS のプロジェクトの事例はいつお聞きしても素晴らしいなと思います。
- 臨床研究の区分の概念が明確にわかった。
- イントロとして面白かったです。
- 難易度が高かったです。
- 感覚としてわかっているような気がしていることもきちんとした概念として言葉で説明できない自分自身を再認識できるから
- 今まで、データマネジメントの実務経験のなかで、漠然と感じていることを、系統的、段階的に示していただき、漠然としたものを明示化するという自分の仕事で出来そうな感じを持つことが出来ました。
- 独学で臨床研究を行ってきたが、PICO を考えるレベルにとどまっていた気がする。観察研究でも、きちんとした手順があることも改めて認識した。
- 今後、このようなことを生かして臨床研究を行いたいと思う。
- 現在、携わっている臨床試験に大変役に立つ内容でした。今後の講義が楽しみです。
- 医療職の方を対象とされている講義ですので仕方がないのですが、臨床に詳しくないとわからないこともあり、私には少し難しかったです。ですが、臨床研究・治験等のデータマネジメントに従事している身として、とてもためになる講義であり非常に興味深い内容でした。
- 論文のタイトルにリサーチ・クエスチョンが記載されていることが大切、というのは改めて気づかされた。
- 研究デザインの肝要部分がとてもわかりやすく解説されたと思います
- 第1回と言うことで、これからの講義の全体像を俯瞰出来る内容であった。
- 背景の書き方やデザインの型の整理ができた。
- 福原先生の情熱的な講義をお聞きして、臨床研究にしっかり取り組んでみたいと思えるようになったので。また、学会発表に向けまとめたいと思っているテーマがあるのですが、具体的なイメージを思い描くことができました。
- これから学ぶべき道筋がみえてきたように思う。
- 自分の勉強不足や経験不足が原因とは思いますが、なじみのない用語などで理解がしにく

い部分があった。自分の診療科と離れているため、透析の例はわかりにくかったが同時に新鮮でもあった。

- 日常診療の中ではなかなか伺えないお話で興味深かったです。
- 概念的なものが多かったがわかりやすかった。
- 大変勉強になりました。
- 一方的な講義でなく、みんなで考える場面が多いので、理解を深めやすい。
- 歯切れの良い講義で、退屈しなかった。
- 実際には私自身が臨床研究設計を行うことは無い為、学びを業務に行かしていくことが難しく、評価できません。

ただ、こうした研究者の意図を知る設計図を把握することは、より有益なデータベース構築を行えるようになって感じました。

その為、こういった講義が実際臨床研究に携わるより多くの分野の、特に工学系、情報系分野の方々の参加があれば良いと思いました。

- 研究には何が最も重要なのが理解できました。
- データベースの作成をしています。その作成に少しでも役立てられればと参加しました。ついていけるかどうか不安です。

(ウ)第2回 疑問をリサーチ・クエスチョンに構造化する 感想

- 講義を受けるたびに、研究テーマの構想の仕方が、より人に伝わりやすくて的を得たものになってきているような気がする。
- 過去起点コホート研究やコホート研究のほうが症例対照研究より優れているというお話は知らなかったので勉強になりました。専門の先生のお話も聞けてディスカッションスタイルもとても勉強になりました。
- 漠然としたアイデアをまとめる練習になった。
- 講義がとてもわかりやすかった。
実際にグループワークをしてから他のグループの意見をきくことで集中力が上がった。
- 予習を行い、講義で確認しグループワークで討論、その後考え方について説明があり、講義終了後このクイズに答える際に復習ができることにより、理解度が深まりました。
- グループディスカッションを通じて、他職種の見方を知ることができた。
- 試験の計画を立てることが一番難しくて大切だということを再認識した。PECO のテンプレートがあるだけで議論がより具体的で深いものになり、頭の整理がしやすくなった。
- 事前学習ビデオで、予習ができ、より理解度が深まった。
- グループディスカッションにて色々な意見が聞けたことや、コホートの話など研究デザインの型についてのQ&Aが多く、前回、もう少し詳しくお聞きしたいと思っていたところでしたので、説明が聞けて大変満足しております。今後の講義にて、さらに詳しくご説明があると聞き、とても楽しみにしております。
- 実例を使っており、かなり実践的だった。
- グループワークが楽しかった。
- 自分が臨床研究をやってみたい気分になった。
- 講義の内容は興味深かったが、グループワークがスムーズに進まなかった。
- 実際に課題を discussion することで理解が深まったと思います。
- 前回講義を feed back されることで、内容への理解が深まった。
- もう少し時間が長いと良いと思います。
- グループワークの時間がもう少し欲しかったです。
- 自分の勉強不足かもしれませんが、やや難しい用語がところどころにありました。
内容そのものは非常に面白く勉強になりました。
- 学習が不足していて難しく、理解が十分できませんでした。
- 臨床研究を立案するにあたっての注意点など、論理的であり非常に興味深いです。
- ディスカッション出来たのが良かった
- グループ毎に意見を出し合うことで、講義をお聞きするだけでなく、他の受講者の意見もお聞ききできた。
- 過去が起点でも、コホート研究は前向きに研究されるという説明がうかがえてよかったです。
- 普段考えてないことを教えてもらえる。
- 福原先生の熱意溢れるご講義を拝聴でき、大変嬉しく思っております。

- 全体の時間が短いせいもあって、せっかくのグループディスカッションの時間が短かったです。
- ディスカッションは面白かったが、解説がなくて残念だった。記事は、突っ込みどころ満載なので、色々な意見がでると思うが、それらを可能なら先生方の解説（解釈でも）つきで、フィードバックしていただけると勉強になると思った。
- 前回のアンケートの回答に時間が割かれたが、研究デザインの型に関する質問が多く、一度体系的な授業を聞いてから質問に回答した方が効率が良いと思う。後半のディスカッションの時間を多く使いたかった。
- RQの改善のポイントがわかりにくかった。正答例を示してほしかった
- グループディスカッションが良かった。
- 課題について議論する際に「before」の部分で議論が終わってしまい、「FIRMMNESS」まで辿り着きませんでした。「before」のPECOで細かく考えすぎたものありますが、もう少し議論する時間があればと有難いと思いました。
- FIRM²NESについてのディスカッションの時間がもう少しあると、より概念を掴みやすかったと思います。
- もう少し議論の時間があつた方が良かった。
- 具体的な臨床研究をイメージ出来ていないため。（講義の問題ではありませんが。）
- 講義内容は興味深く満足しているが、グループワークは課題が難しく、また他の参加者のレベルが高すぎてついていけなかった。糖尿病、透析についてもっと予習していくべきだったと反省。
- 前回の質問にかける時間が長く、グループワークにほとんど時間がとれなかった。
- リアル講義の分量が少なく、ビデオの内容を主にかつ短時間で行うならば、手元資料を充実して欲しかった。
- 事前学習ビデオと「道標」以上の内容がなかった。

(エ)第3回 疑問をモデル化する 感想

- グループワークが自分としてはよかったが、ドクターとドクター以外では知識や経験などに差があり、ドクター以外の方は満足感があつたか少し心配です。
何のためにデータを取るのか、またいつの時点のデータを取るのか、理解できてよかったです。先行研究やガイドラインなどをしっかり調べる大切さも、今日もまた実感しました。
- グループ討論時間が十分であった。
- 交絡因子、予後因子、中間因子について、具体的に考える機会が有り、理解が深まった感じがする。
- グループワークに参加して、第3の因子が、考え方や解釈より交絡因子にも予後因子にもなり得ることを目の当たりにし、影響度や優先順位を考えることの重要性を実感することができました。
- グループワークの時間内で、講義で聞いた内容を実践の中で十分に咀嚼することができた。今回はじめて、グループワークの重要性が実感できた。
- これまで自分で研究をデザインしたことはありませんが、現在、ちょうど新たに研究を開始する段階です。セミナーの内容をリアルタイムで活用できるため満足しています。
- グループワークに講師の先生が巡回して討論に加わってくださったり、重要なヒントをいただけたのがとても有意義だったため。問題の考え方の参考になりました。
- 交絡因子について少し理解できた。
- 内容に対してグループワーキングの適当な時間があり、配分が良かった。
- 臨床疫学の良く分からない概念を説明してもらえる。
- グループワークで他職種間ディスカッションにより様々な意見を聞き、理解を深められたと思います。
- 高血圧など具体的な例を提示して説明して頂いたのでわかりやすかった。
グループワークの課題（何をディスカッションすればいいか）が明確だったので、すぐに実質的な討論に入れた。
- わからないことがわかった。
- グループワークすることで理解が深まった
- グループワークの時間と課題量がちょうどよかった。
- グループワークの時間が十分にあって良かったです。
- グループ内での discussion が盛り上がりに欠けた
- 一段階ずつ進むからわかりやすい。
- 喫煙はコーヒー、酔眼ともに関連するため
- もう少し福原先生の講義が聞きたいです。
- 概念モデルを作る練習をすることで、混乱しがちな因子を整理する練習になったので
- ある程度は、研究デザインについて理解出来たが、いざ実践となったときに、できるかどうかはまだ不透明な部分がある。
- モデル化していくということの重要性がよくわかりました。また、自分の持ちえない視点を他の方に示してもらえるグループワークは確かに有用です。

- 事例が少し難しく、どう考えたらよいかわからなかったのですが、皆さんの意見もお聞きして気付く点が多々ありました。中間因子と交絡が区別がつきにくく迷いました。
- 今回はディスカッションの時間が比較的とれた。
臨床研究において、交絡因子の大切さを理解していても、実際にデータを集めてから後で検討項目を取り直しする無駄を経験したことがあり、事前の検討が極めて重要である事を再認識した。概念モデルを習慣としたい。
- 実際に概念モデルを書いてみて、第3の因子を検討することで、交絡因子と予後因子を区別するためにはより具体的に因子を設定しなければならないことに気づけたので。
- グループ内で発問すると、メンバーからわかりやすく説明してもらえることが良かった
- まずアウトカムに対する因子を列挙して、交絡因子か他の因子を考慮するという方法は役に立つと考えられた。
- 第三の因子についてよく理解出来たと思いました。
- これまで、漠然とした疑問（RQ）を構造化し概念モデルとしてパターン化することが無かったので、型にすることで問題を整理し、具体化することが出来ました。各分野で応用が出来、今までより客観的なものの見方が出来ることを学習しました。
- 概念図を作成する作業について学ぶことができた。もう少し、全体でディスカッションができればと思いました。いろいろな意見がでて面白かった。
- グループワークの議論で理解が深まったと思います。
- 研究計画を構築するに当たり、基本的な考え方を学べている。
- 交絡因子を排除するテクニックを教えてもらいたかった。
- 毎回そうですが、講義の内容説明がわかりやすい。
- グループを少人数に設定してもらえたので、それぞれが意見を出しやすく深い議論ができた。
- グループ内の意見を聞き、議論することで知識が深まったと思います。
- グループでの話し合いが同じ部署で知っている人だったため、リラックスして意見が出せた。
また話している途中でアドバイスをいただけてよかった。
- グループワークの時間が長く、議論する時間があつた。
- 授業内容は少なかったが、話の端々になるほどと思うところがあり勉強になった。
- 与えられた課題では PECO の 0 が規定されていたが、0 の 1 年間の HbA1c の変化でよいのかということが気になっていた。適切なエンドポイントの選定（少なくとも納得している）の検討が大切と思います。
- グループワークでは、いろいろ因子をあげたが、中間因子、予後因子、要因に影響する因子、交絡のどれに該当するのかよくわからなかった。
- 第3の因子の見極めが難しく、また分類する意味（重要性）が明確には分からなかった。
- 少し議論にはなっていたが、代表グループの方たちの挙げた交絡因子が適切なのかどうかもう少し検証してほしかった。要因との関連が明確でなく、予後因子に分類すべきと考える項目もあつた気がした。

(オ)第4回 測定をデザインする 感想

- 要因とアウトカムをいかに変数として定義するかについて、その重要性については理解できたが、実際にするととなると難しいと実感しました。
- 論文作成に必要だと感じた
- 今後の研究を行う上で勉強になった
- ものさしの目の最小単位が適切でなければ、測定の精度に影響すると感じた。
- Eと0の変数の種類によって解析の方法が決まるということを知った。
- 漢字が続くと理解が難しくなることがありましたが、本を読んで復習します。
- グループワークでの話し合いもですが、他のグループの発表もお聞きし、自分達が気づけていなかったことも確認できました。
- グループワークの時にはいつも話がいろんな方向に広がってしまい（研究のデザインについての疑問や第3の因子に関して等々）、「この時間に討論すべきこと」がきちんと話し合えていないことも多いように思います。

今回は、「ものさし」についての検討ということで明確になっていたもので、話し合う内容が絞れて良かったです。

- グループディスカッションを通じて、徐々に、研究デザインの形ができつつあるような気がします。

ただ、これをひとりでやるとどうしても抜けが出てしまう。

多くの目でチェックすることが、研究計画の質を上げるのには不可欠なのでしょう。

- 測定尺度に関して、その妥当性をきちんと検討できるようになって気がします。
- 研究計画を立てるときに、変数の選択や、測定法の選択がとくに難しいと感じている
- ものさしの検討方法と使い方についての講義がもっとあればいいのと思った。
- 前回の復習分が長くて、今回の講義分の時間・グループワークが短く、理解が不十分だった。
- 自分の仮説を示すのに最もふさわしい測定方法を考え、できるだけ精度を保って測定することが大切だと思いましたが、実行するのは非常に難しいと実感しました。
- 「測定」とは、何をどのようなものさしで、いつ、どこで、誰が、どのように測定するかを考えなければならない、大変な作業だと感じました。
- 予習ビデオを見れずに行ったので、かなり理解が下がってしまった。
今度からきちんと予習したい。
- はじめは前回の授業の感想か〜、と思ったらそれがほとんど本題だった。
みんなの疑問から理解が深まったので、良かった。でも冗長なところもあった。
- 今回は予習不足もあって、課題の意図を少々掴み兼ねてしまいました。
- 今回はいつもより掘り下げが少なかったように感じました。
- 「ものさし」の使い方や妥当性についてもう少しディスカッションできたら良かった。
- グループワークと講義の関連が十分に掴みきれずに終わってしまった
- グループディスカッションをしていると毎回自分の発言が的外れなような気がします。

(カ)第5回 研究デザインの「型」を選ぶ 感想

- 難易度が適当であった
- なじみのない用語を繰り返し説明してもらえ、頭の中でまとまってくる気がします(錯覚かもしれませんが)。
- 研究デザインの型を選択する際の基本的な考え方が大まかに理解できました。
- 具体的な例での説明がわかりやすく思いました。
- 一つ一つの例を取り上げて、詳しく説明してくださいました。わかりやすかったです。
- なんとなく研究を始めてしまいそうですが、それからではバイアスが調整できないこと、事前にきちんと研究デザインを立てておくことの重要性が意識でき、また改めてどのようなデザインの型があるかということ先生の分かりやすい講義でシンプルに理解することができ、大変有意義でした。
- 具体例が示されていたので、研究デザインの型がイメージしやすかった。
- ケースコントロールスタディーについて、理解が深まった。
- 説明が丁寧でわかりやすかった。
- 症例対照研究とコホート研究、リスク比とオッズ比の対応が初めて理解できました。ありがとうございました。
- それぞれの研究の特徴が理解できました。
- 症例対照研究の意味が分かった。
- 自分の知識を再確認できました。
- 理解しやすかった
- 具体的に説明していただけて良かったです。
- 臨床研究に関わる職種のため、知識の習得のために参加しておりますが、実施者の立場により具体的に理解することを考えると、十分に理解しているとは言えない。

(キ)第6回 存在・発生・効果の指標 感想

- 教科書で読んで良く理解できていなかったことを改めて講義で説明してもらおうと、理解できた気になれた。講義で理解したと思っていたが、演習に入ると、自分の理解が浅いこともよく分かった。実際にデータに向かわせてもらって、どういうものかが分かって良かった。
- 割合と率についての違いが明確になりました。
- 最後のワークシートは、データをどう研究するかがとても解りやすかったです。答えは一つではないことも理解出来ました。実際には研究デザインが先でデータが後とわかっていても、具体的にここまで考えてデータを取っていなかったことに反省します。
- ニーズに合っていた
- 効果の指標をどのように設定すればいいのかが難しかったです。
- 混同していた部分が理解できた
- 例題を解きながらやる方が授業を聞く方だけよりも身についた。
- 発生率、発生割合の違いがよく理解できた
- 割合、率、比についてはかなり曖昧な知識しかなかった。
- 曖昧に理解しているポイントについての講義だった。特に割合と率の違いについて明確に理解できた。
- 丁寧に説明していただいていたのですが、すっきり理解するというところまでにおよばなかったため。復習します。

(ク)第7回 比較の質を高める 感想

- 臨床研究のガイドブックなどを読んだだけでは理解が不十分だと感じた。
- 事前学習の講義を聞いてから参加することでよりわかりやすく感じました。
- 未測定の交絡の方向性を推測できることを知り、勉強になった。
- 交絡やバイアスは理解しているつもりでもよく理解していなかったことがわかった。
- 交絡因子ということが分かったような分からないような気がして、今日は分かったような気がします。とても 満足 を選べなかったのは、単に私の理解力が不足で十分理解できなかったからです。講義の説明は簡潔明瞭だったと思います。
- なかなか皆さんの質疑などに追いつけない状態ではありますが、イメージが少しずつ出来上がっていく感覚が嬉しく思われます。
しかし理解となるとまだなかなかです。今後ともよろしくお願いいたします。
- 講義を拝聴して、今までの臨床試験の関わり方を見直し、より深く考えることが出来るようになった
- 予習ビデオがあって、授業がよく理解できたから。ただ、予習には時間がかかるので、つらいところもあります…
- 事前学習でよくわからなかったところが理解できた
- 事前学習ビデオと内容がほぼ同じだったから。
- 講義を聞いているとなんとなくわかったような気がしますが、実際にアンケートに答えようとすると混乱してしまいます。

(ケ)第8回 比較の質を高める グループワーク 感想

- 説明の後、実際に交絡因子などの分析をやらせてもらったのが良かったです。人と相談できたのも面白かったです。
- 解説が分かりやすく説明いただいた。
適切なところで、ファシリテーターの先生が声をかけてくれたのも良かった。
- 研究のデザインを批判的に読む機会は初めてでした。
- 全体を通じて、PECO を意識したり、交絡・予後因子を考えたりするための、基本的な知識を学ぶことができました。
反復して学習したいので、機会があればまた受講を申し込みたいと考えています。
- 実際の論文から RQ を考えたり比較の質を検討することは初めてで、実践的な授業でした。
まだまだ自力で考えるには漏れが多すぎますが、考え方が解りました。
- 久しぶりに福原俊一先生のご講義を拝聴することができ、活力を頂きました。
毎回、講師の先生方から臨床研究デザインについて、大変分かり易くかつ丁寧な指導を受け、感謝しております。このような機会を与えて頂きましたことを嬉しく思っております。
- ワークショップは身になるのもっと時間をとりたかった
- 実際の論文の PECO を考え、自分ならどうするかと考え、皆さんの意見を聞くことができ勉強になりました。
まだ自分でするでは難しくもう少し時間があれば、と思ったので上記の解答にさせていただきました。
- 講義の内容については、非常にわかり易く、グループディスカッションで他の先生の意見も何うことが出来、非常に満足しておりますが、講義の時間が足りず、ワークシートを全て埋めるところまでいきませんでしたので、申し訳ありませんが一段階下げさせていただきました。
- 今迄のレビューがひととおりできたので、よかったです。
- 交絡因子、バイアスにつきみんなと議論できた。
- 最後によい復習、まとめとなったように思います。
- 今回の実習で、論文の PECO の読み取り方のコツが少しだけわかったような気になってまいりました。でもどの論文に関しても本当に大事な情報(真理)を読み取ろうと思ったらこのような視点がとても大事だという事が身に染みました。